

MOUSA ^{ムーサ} 2

平成30年度 高等学校教科書 音楽Ⅱ

27教芸 (平成30教 内容解説資料)



| | | |
|----|-----------------|--------------------|
| 目次 | MOUSAについて……………2 | 鑑賞……………9 |
| | 紙面構成……………3 | 資料……………11 |
| | 歌唱……………4 | 年間指導計画例……………12 |
| | 器楽……………6 | 指導書について……………14 |
| | 創作……………8 | 検討の観点別に見た特色……………15 |

紙面構成

MOUSA 2では、「具体的にどのような活動をして、何を学ぶのか」を紙面ごとに明確に示しました。また、生徒が主体的に楽しく学ぶことができるように、各紙面にさまざまな工夫を凝らしています。

教科書紙面の一例

着眼点と言語活動を具体的に提示

鑑賞の学習内容

特徴を比較できるような同種の情報の表示を
そろえた見やすいデザイン



(P.98・99)

生徒の興味・関心を引くと同時に、学習の理解が
深まるような参考図版を適宜配置

MOUSAについて

*

私たちの生活と音楽の関わり方が時代とともに変化していく中で、MOUSAもそれに適合するよう改訂を重ねてきました。平成30年度から使用されるMOUSA 2では、平成29年度から使用されているMOUSA 1と同様に、教材、表記、参考図版、レイアウトなど、全ての内容を徹底的に見直しています。教材を精選する際には、生徒たちが音楽Iで学習した内容を深めるとともに新たな発見をすることができるような紙面づくりを心がけました。それは、「音楽II」が生徒たちの豊かな人間性を養ううえで重要な段階にあるという実情を考慮してのことでもあります。多様化する社会の中で生徒たちが主体性を発揮して豊かに自己表現できることを願い、そのためにはどのような手順やヒント、学習活動をサポートする資料などが必要なのかを考えながら、紙面へと反映させていきました。

このように時代の変化に伴いMOUSAは進化し続けておりますが、コンセプトは一貫しています。それは、**生徒たちが卒業後も手元に残しておきたいと思える教科書**にすることです。このコンセプトの下、教材一つを見直す際にも、単に定めた学習内容のためだけに教材を選ぶのではなく、その教材が「生徒の心を動かす音楽」であるかどうかを第一に考え、より深みのある教科書へと生まれ変わりました。

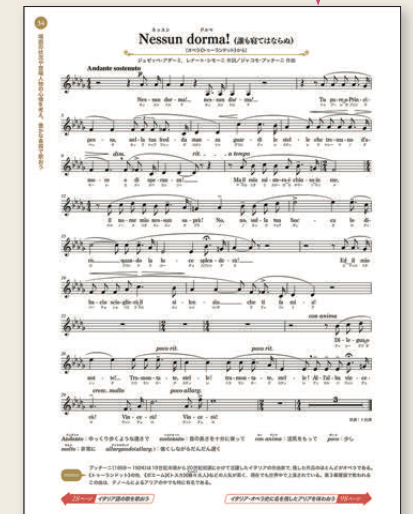
歴史的背景を確認



(P.92-93)

音楽を形づくっている要素について
分かりやすく解説

(P.94)



(P.34)

鑑賞曲を実際に歌って、
表現の特徴を感じ取る

学習活動をサポートする資料や、表現と鑑賞を深めるための教材などへ適宜リンクを張っています。また、教材によっては歌唱、器楽、創作、鑑賞のそれぞれを関連付け、音楽の能力が確実に定着するようになっています。

歌唱

音楽の学習を通して生徒たちがより豊かに自己表現することができるよう教材を精選し、提示の仕方を工夫しながら、ポピュラー・ソング、唱歌、芸術歌曲、合唱曲、ミュージカル・ナンバー、オペラ・アリアなどを取り上げました。また、ジャンルが多岐にわたっているだけでなくさまざまな曲想の曲を取りそろえ、さらに伝統音楽の歌唱にも取り組めるよう長唄を収録しました。

発声 明確な目的をもって行えるヴォイス・トレーニングのEXERCISEを、《Alleluja》をはじめとする歌唱教材に生かすことができるようにしました。1年を通して活用できるページになっています。

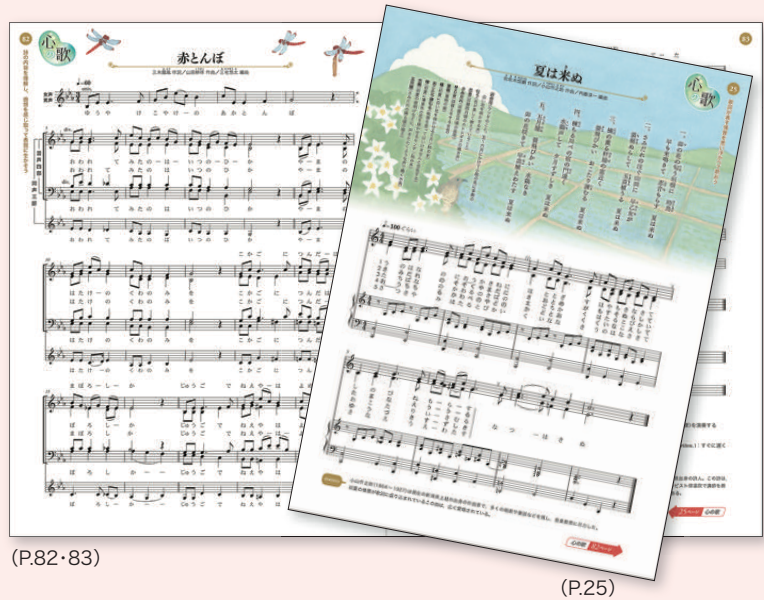
歌う際のポイントを楽譜中に色文字で挿入

MOUSA ①では《Ave Maria》を用いてロングトーンによる豊かな響きの習得を、MOUSA ②では《Alleluja》を用いて細かい動きや跳躍音程を正確に歌う技能の習得を目的としています。

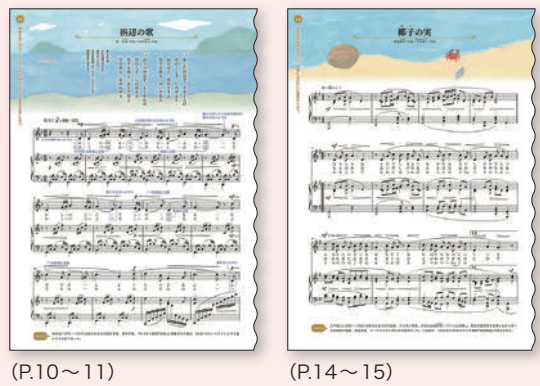


心の歌 歌い継いでいきたい日本の歌を「心の歌」と題し、自然の美しさや情緒が感じられる曲を取りそろえました。各曲とも縦書き歌詞を掲載しています。

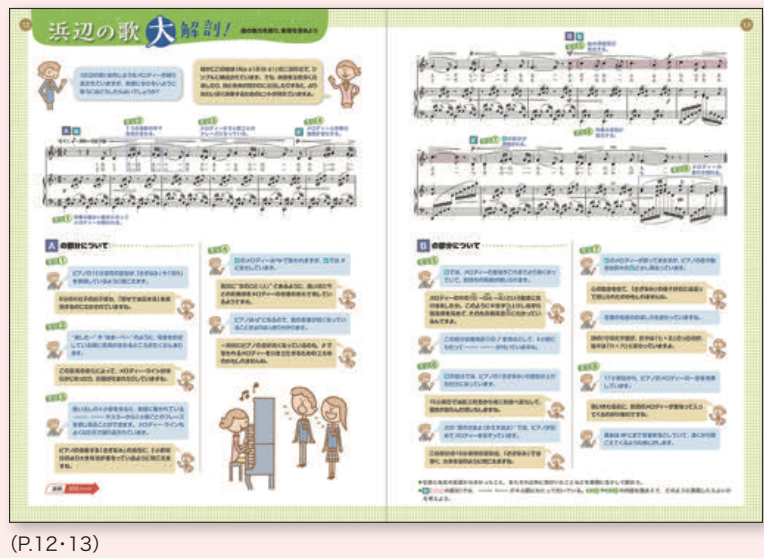
新たに三宅悠太氏が編曲した《赤とんぼ》は、各学校の実態に応じて、「混声四部」または「同声三部」が選択できます。



日本の歌曲 独唱のための教材として、《椰子の実》に加え、《浜辺の歌》を新たに収録しました。各曲とも縦書き歌詞と伴奏譜を掲載しています。また、MOUSA ②では表現を深めるための大解剖を《浜辺の歌》で試みました。



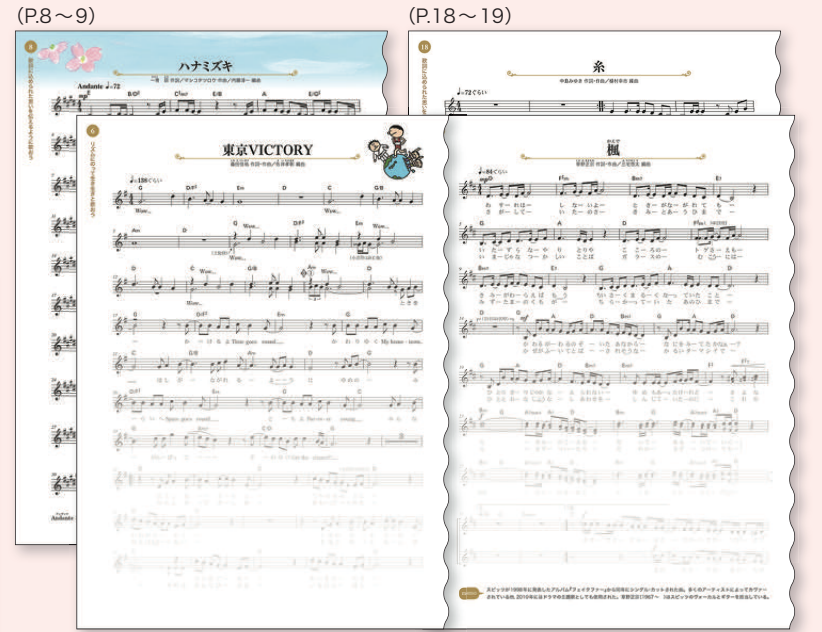
生徒と先生の会話によって、発見の内容が膨らんでいきます。



ポピュラー・ソング 人気の高い《ハナミズキ》《糸》の他に、爽やかな曲調の《東京 VICTORY》とスピッツの《楓》を新たに加えました。また、《上を向いて歩こう》は、授業で扱いやすい斉唱と二部合唱によるスタンダードなアレンジにしました。



豊かに自己表現することができるよう、さまざまな曲想の教材を取り上げています。

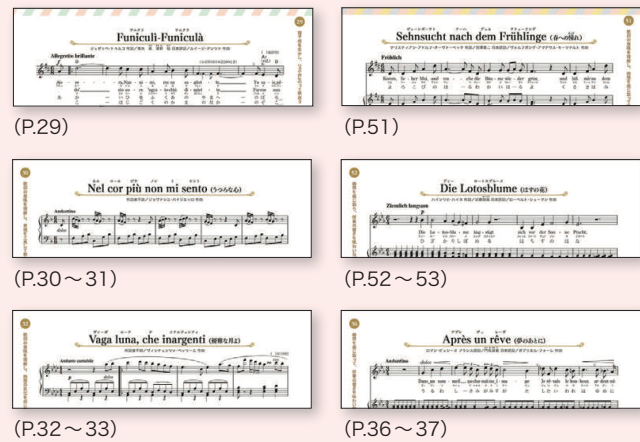


(P.6~7) (P.20~21)

合唱, ヴォイス・アンサンブル 合唱では、「心の歌」で紹介した《赤とんぼ》に加え、佐井孝彰氏の作曲した《はなさくら》(混声四部 ア・カペラ)を新たに収録しました。また、フランキー・ヴァリによるファルセットによる歌唱が特徴的な《Sherry》をヴォイス・アンサンブルで楽しめます。



外国の歌曲 定番曲の中からイタリア歌曲3曲、ドイツ歌曲2曲、フランス歌曲1曲を取り上げ、原語歌詞の意味も掲載しました。この他、イタリア語によるオペラ・アリアや英語の歌も収録しています。



日本の伝統的な歌唱 MOUSA ①では能の「詠」を取り上げ、MOUSA ②では「長唄」を取り上げました。唄い方を体験し、日本の伝統音楽への理解を深めることができます。取り組みやすくなるために、三味線の伴奏を指導用CDに収録しています。

実際の長唄の楽譜の例

長唄の特徴を感じ取るための五線を用了絵譜



器楽

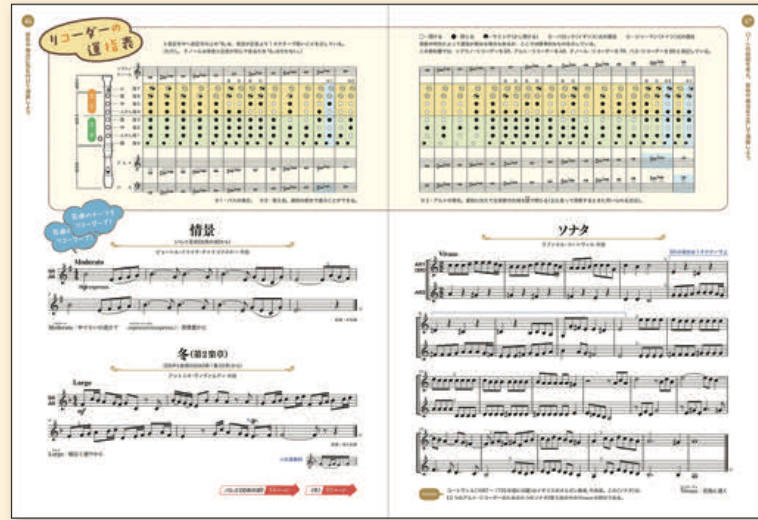
生徒たちが楽しく幅広く音楽を学習することができるよう教材を精選し、ポピュラー音楽、クラシック音楽、映画音楽、民謡、雅楽などバラエティー豊かな曲を取りそろえました。また、ソロからアンサンブルまでさまざまな演奏形態で取り組めるよう心がけるとともに、楽器や奏法の説明を確認しながら演奏できるよう紙面構成を工夫しました。

リコーダー 各学校や生徒の実態を考慮し、ソプラノとアルトのどちらでも演奏できる曲や、アルトの二重奏でもソプラノとアルトによる二重奏でも演奏が可能な曲などを収録しました。



(P.48-49)

運指表を見開きで見やすく示しています。(P.46-47)



和楽器 MOUSA①ではそれぞれの楽器奏法の習得を目的とする紙面構成にしましたが、MOUSA②ではさまざまな楽器編成による教材を取り上げ、音色の重なり合いを味わうことができるようにしました。また、和楽器単体では三線に焦点を当て、人気の高い《涙そうそう》と沖縄民謡《ていんさぐぬ花》を収録しました。

歌、三味線、太鼓の編成



(P.63-64・65)

《斎太郎節》の伴奏楽器は三味線のみ、太鼓のみにも可能です。《祭の夢》は、唱歌で篠笛の旋律のニュアンスを感じ取ることもできます。

篠笛(唱歌も掲載)と太鼓の編成

三線の工工四とリズムを掲載

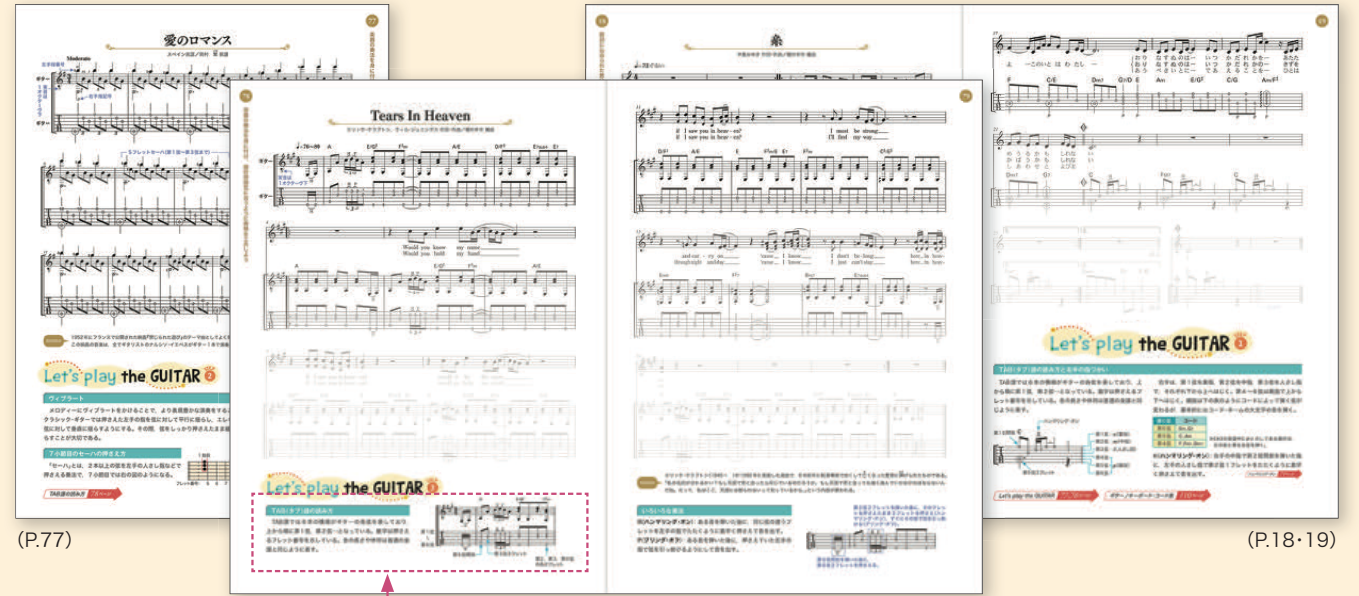


(P.60-61・62)

五線譜と工工四の組み合わせ

ギター

MOUSA①で身に付けた基本的な奏法を生かして演奏することができ、ギターの学習者が憧れる曲を豊富に取りそろえました。クラシック・ギターの定番曲《愛のロマンス》ではヴィブラート奏法とセーハの押さえ方を練習することができ、ポピュラー音楽では歌とギターに分かれての演奏や弾き歌いに取り組むことができます。



(P.77)

TAB譜の読み方

掲載曲の一部を取り出し、楽譜ページに収まるように奏法の説明を記しています。また、各曲ともTAB譜を掲載しています。

(P.18-19)

その他

グループ活動によって協働しながら学習を進めることができるボディーパーカッションや、リコーダーと鍵盤ハーモニカを中心とする取り組みやすいアンサンブル教材を取りそろえました。グループで楽しみながら表現を深めることができます。

ソプラノ・リコーダー、鍵盤ハーモニカ、ピアノの編成

人気の高いスタジオジブリの音楽から、《人生のメリーゴーランド》を新たに収録しています。



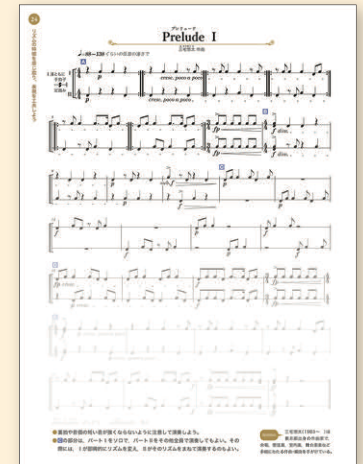
(P.44-45)

(P.24)

(P.80-81)



身近な楽器で実際に演奏して、雅楽の雰囲気や表現の特徴を感じ取ることができます。



楽器を用いないボディーパーカッションは、気軽に取り組むことができます。

創作

表現したいイメージを着実に形にしていけるように、豊富な例を取り入れながら簡潔かつ丁寧に手順を追って示しました。また、歌唱や器楽教材と関連をもたせ、創作に取りかかりやすくすると同時に表現を深められるようにしました。

(P.26-27)

創作 1 構成を工夫して作品をつくらう

1 着想する。アイデアを膨らませ、構成の骨格を決定する。

2 着想する。着想を具体化し、楽譜に落とし込む。

3 コアとなる部分を完成させる。

4 コア以外の部分を完成させる。

5 全体の構成を確認し、必要に応じて修正を加える。

6 最終的な楽譜を作成し、演奏を想定する。

ミニマル・ミュージックの発想を取り入れた「新しい創作」の提案。独特の音響空間を感じ取って、音楽のおもしろさを新しい角度から発見することができます。コンピュータを活用した創作にも最適です。

(P.57)

《Amazing Grace》のメロディーを用いて、変奏と編曲に取り組みます。

(P.58-59)

創作 2 メロディーの雰囲気を変化させよう

創作 3 演奏スタイルを変化させよう

(P.66-67)

創作 4 音階を選んで旋律をつくらう

1 音階を選択する。

2 音階に基づいて旋律を創作する。

3 完成した旋律を確認し、必要に応じて修正を加える。

4 最終的な楽譜を作成し、演奏を想定する。

直前の和楽器を扱ったページ(P.60~65)には日本の音階を用いた表現教材があるので、旋律づくりに取り組む前にその雰囲気を感じ取ることができます。

ていごの唄 (P.62)

舞上り (P.63)

鼓の唄 (P.65)

鑑賞

日本の伝統音楽、世界の諸民族の音楽、西洋音楽の全てに「鑑賞のポイント」を示し、生徒たちが声や楽器の音色の特徴を感じ取ったり、音楽を形づくっている要素に目を向けたりすることができるようにしました。また、さまざまな音楽が影響し合って生まれた「世界のポピュラー音楽」についても取り上げ、多角的に音楽の魅力を捉えられるようにしました。

日本の伝統音楽

それぞれの音楽の特徴を比較することができるよう多種目の伝統音楽を取り上げました。MOUSA①では雅楽、能、箏曲、尺八曲を取り上げたのに対し、MOUSA②では琵琶楽、文楽、歌舞伎を取り上げ、2年間で日本の伝統音楽を幅広く鑑賞することができるようになっています。

総合芸術である文楽と歌舞伎の鑑賞のポイントを提示するにあたり、音源のみで鑑賞する場合を想定した内容も含まれています。

日本の伝統音楽

雅楽 (Yayū)

能 (Noh)

歌舞伎 (Kabuki)

文楽 (Bunraku)

(P.70-71)

世界の諸民族の音楽

MOUSA①では「声による表現」と「楽器による表現」という観点であったのに対し、MOUSA②では「身振りを伴う表現」という観点から、合わせて10種類の音楽を取り上げました。背景にある文化や風土などにも目を向けることができるようになっています。

世界の諸民族の音楽

身振りを作る表現

パリの音楽

インドの音楽

アフリカの音楽

オーストラリアの音楽

南米の音楽

ヨーロッパの音楽

アジアの音楽

(P.74-75-76)

全ての項目に写真が挿入されているので、参考資料としても貴重です。

実際に演奏してフラメンコのバルマのリズムを感じ取るための表現教材

世界のポピュラー音楽

日本でもブームとなったフランス、アイルランド、アルゼンチン、ブラジルの音楽を取り上げました。誰もが耳にしたことのある楽曲を紹介し、世界のさまざまな音楽が影響し合って生まれた20世紀のポピュラー音楽の魅力を探ることができます。

各ジャンルごとに、アーティストとヒット曲を紹介

世界のポピュラー音楽へ

フランス・ポップス (French Pop)

アイルランドの音楽とダンス (Irish Music & Dance)

アルゼンチンタンゴ (Argentine Tango)

ボサノヴァ (Bossa Nova)

(P.38-39)

西洋音楽

さまざまな時代や作曲家の作品を取りそろえ、音楽の要素に施されている工夫や表現方法の多様性を感じ取ることができるよう教材を精選しました。また、新企画の「クローズ・アップ・マエストロ」では、一人の作曲家(ベートーヴェン)の生きた時代背景や生活などについても深く知ることができます。

音楽を鑑賞する際に

ベートーヴェンの生涯と作品をたどろう

《四季(冬)》は、音楽を形づくっている要素と表現されている情景のイメージをつなげやすい教材です。プレゼンテーションをし合って言語活動にも取り組めるようになっていきます。それぞれの季節を比較できるよう、指導書に全てのソネットを掲載しています。

(P.103・104・105)

「クローズ・アップ・マエストロ」の鑑賞曲としては、ピアノ変奏曲、ピアノ・ソナタ、交響曲、弦楽四重奏曲といったさまざまなジャンルの曲を掲載しています。

曲の構成を理解して、リズムとメロディの変化を聴き取りよう

曲の構成を理解して、さまざまな表現方法を感じ取りよう

《クローズ・アップ・マエストロ》

(P.96~97) (P.100~101) (P.102) (P.98-99)

バレエ

数あるバレエの中でも今日圧倒的な人気を誇っているチャイコフスキーの名作《白鳥の湖》を取り上げました。物語が分かりやすいうえに見どころも多く、身振り(マイム)と音楽との一体感を感じ取ることができる教材です。

白鳥の湖 Swan Lake

白鳥の湖の舞臺芸術家人物

音源のみで鑑賞する授業にも対応できるよう、聴きどころとその鑑賞ポイントを示しています。

(P.54-55)

資料

基礎・基本の力

ソルフェージュ

モテディーナ

楽典

(P.22-23) (P.106~109)

歴史

日本の音楽の流れ

日本の“うた”の作曲家たち

西洋音楽の流れ

郷土の芸能

(P.68-69) (P.11) (P.92-93) (P.73)

その他のテキスト

西洋音楽史 作曲家の年表と主な作品

文楽

歌舞伎

(P.112-113) (P.21) (P.110-111)

音楽を学習するうえで必要となる基礎的知識や、教科書中の学習活動をサポートするコーナーを設け、生徒たちの表現と鑑賞の能力が深まり、また興味をもって主体的に学習できるようにしました。MOUSA 1から引き続き掲載している「ソルフェージュ」「日本音楽の流れ」「西洋音楽の流れ」などでは、さらに学びを深めるとともに、MOUSA 2から使用しても基礎的なことを理解できるよう紙面構成を工夫しました。

音楽の楽しみ

音楽の祭典

ラ・フォル・ジュルネ

(口絵v)

年間指導計画例

| 月 | 領域(分野)／ 配当時間 | 題材名 | 題材のねらい | 学習指導要領 内容の指導事項 | | | | | | | | | | | | 内容の取扱い (※は音楽I) | 主な教材 | 題材の指導内容と学習活動 | | | | |
|---|----------------------|---------------------------------------|---|--|---|---|---|--|---|-----|---|---|--------------|-------------------|--------|-------------------|--------------------------|-----------------------------|-------------------------|---|---|---|
| | | | | A表現 | | | | | | B鑑賞 | | | 音楽を形づくっている要素 | 内容の取扱い (※は音楽I) | 主な指導内容 | | | 主な学習活動 | | | | |
| | | | | 歌 | 唱 | 器 | 楽 | 創 | 作 | ア | イ | ウ | | | | | | | エ | ア | イ | ウ |
| 芸術科の目標 芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。 内容 A 表現 表現に関して、次の事項を指導する。 (1) 歌唱 ア 曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて理解し、イメージをもって歌うこと。 イ 曲種に応じた発声の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解し、表現を工夫して歌うこと。 ウ 様々な表現形態による歌唱の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解し、表現を工夫して歌うこと。 エ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解して歌うこと。 (2) 器楽 ア 曲想を楽曲の背景とかかわらせて理解し、イメージをもって演奏すること。 イ 楽器の音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解し、表現を工夫して演奏すること。 ウ 様々な表現形態による器楽の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解し、表現を工夫して演奏すること。 | | | | エ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解して演奏すること。 (3) 創作 ア 音階を選んで旋律をつくり、その旋律に副次的な旋律や和音などを付けて、イメージをもって創造的に音楽をつくること。 イ 音楽材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成を工夫して、イメージをもって創造的に音楽をつくること。 ウ 音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、イメージをもって創造的に変奏や編曲をすること。 エ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解して音楽をつくること。 B 鑑賞 鑑賞に関して、次の事項を指導する。 ア 声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解して鑑賞すること。 イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解して鑑賞すること。 ウ 楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲家及び演奏者による表現の特徴について理解を深めて鑑賞すること。 エ 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解を深めて鑑賞すること。 | | | | 科目の目標 音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。 内容の取扱い (1) 内容のA及びBの指導に当たっては、相互の関連を図るものとする。また、生徒の特性、地域や学校の実態を考慮し、内容のAの(1)、(2)又は(3)のうち一つ以上を選択して扱うことができる。 (2) 内容のBの指導に当たっては、我が国や郷土の伝統音楽を含む多様な音楽文化について理解を深める観点から、適切かつ十分な授業時数を配当するものとする。 (3) 内容の取扱いに当たっては、「音楽I」の3の(2)から(8)までと同様に取り扱うものとする。 音楽Iの内容の取扱い (2) 生徒の特性等を考慮し、内容のAの(3)のア、イ又はウのうち一つ以上を選択して扱うことができる。 (3) 内容のAの指導に当たっては、生徒の特性等を考慮し、視唱と視奏及び読譜と記譜の指導を含めるものとする。 (4) 内容のAの指導に当たっては、我が国の伝統的な歌唱及び和楽器を含めて扱うようにする。また、内容のBのエとの関連を図るよう配慮するものとする。 (5) 内容のAの(3)の指導に当たっては、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成することを重視するとともに、作品を記録する方法を工夫させるものとする。 | | | | | | | | | | | | (6) 内容のBの指導に当たっては、楽曲や演奏について根拠をもって批評する活動などを取り入れるようにする。 (7) 内容のA及びBの教材については、地域や学校の実態等を考慮し、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽から幅広く扱うようにする。また、Bの教材については、アジア地域の諸民族の音楽を含めて扱うようにする。 (8) 音や音楽と生活や社会とのかかわりを考えさせ、音環境への関心を高めるよう配慮するものとする。また、音楽に関する知的財産権などについて配慮し、著作物等を尊重する態度の形成を図るようにする。 | | |
| 4 5 6 7 | 表現(歌唱)／ 4時間 | 正しい発声法を身に付けよう | 姿勢や呼吸法、発声法に気を付け、楽曲の特徴を感じ取り、イメージをもって歌う | ● | ● | ● | ● | | | | | | | | | | | 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱 | (3)* | Alleluja／東京VICTORY／ハナミズキ／楓 | ・姿勢や身体の使い方、呼吸法、発声法など ・曲想と歌詞の内容とのかかわり ・リズム、速度、テクスチャ、強弱、旋律の特徴などを生かした表現 | ・姿勢や身体の使い方、呼吸法、発声法などに気を付けて歌う ・曲想と歌詞の内容がどのようにかかわっているかを感じ取る ・自分なりのイメージをもって、リズム、速度、テクスチャ、強弱、旋律の特徴などを生かして歌う |
| | 表現(歌唱)／ 8時間 | 日本や外国の歌曲に親しみ、独唱に挑戦しよう | 原語の語感を生かし、発音やフレーズの歌い方などを工夫しながら、楽曲にふさわしい表現を追求して独唱する | ● | ● | ● | ● | | | | | | | | | | | 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、構成 | (3)* | 浜辺の歌／椰子の実／Funiculi-Funiculà／Nel cor più non mi sento／Vaga luna, che inargenti／Après un rêve／Sehnsucht nach dem Frühlinge／Die Lotosblume | ・日本語、イタリア語、フランス語、ドイツ語の発音と歌唱法 ・曲想と歌詞の内容とのかかわり ・歌と伴奏それぞれの役割 | ・日本語、イタリア語、フランス語、ドイツ語で歌詞を読む ・曲想と歌詞が表す情景や心情とのかかわりを理解して歌う ・歌と伴奏それぞれの役割をよく理解して表現に生かす |
| | 表現(歌唱、器楽)／ 6時間 | ギターの弾き歌いをしよう | ギターの音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解し、表現を工夫しながら弾き歌いをする | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | | | 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱 | (1)、(3)* | 糸／Tears In Heaven | ・ギターの音色や奏法の特徴 ・音色、リズム、旋律、強弱など、音楽を形づくっている要素の知覚と、それらの働きの感受 | ・ギターの音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解して演奏する ・音色、リズム、旋律、強弱など、音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解し、表現を工夫して演奏する |
| | 表現(器楽)／ 2時間 | ボディーパーカッションに挑戦しよう | 音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解し、表現を工夫してアンサンブルの喜びを味わう | | | | ● | ● | ● | ● | | | | | | | | 音色、リズム、速度、強弱、構成 | (3)* | ソルフェージュ／Prelude I | ・ボディーパーカッションの音色や奏法の工夫 ・アンサンブルにおける自分の役割にふさわしい表現方法 | ・ボディーパーカッションの音色や奏法を工夫しながら演奏する ・共通のイメージをもって、アンサンブルにふさわしい表現を心がける |
| | 表現(器楽)、鑑賞／ 4時間 | 世界の諸民族の音楽に親しもう | 世界の諸民族の音楽における身振りを伴う表現の特徴を理解し、多様な表現による音楽美を感じ取って鑑賞する | | | | ● | ● | ● | ● | | | | | ● | ● | ● | 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成 | (1)、(3)*、(6)*、(7)*、(8)* | 器楽：フラメンコのバルマ 鑑賞：「世界の諸民族の音楽」 | ・バルマの音色を生かした表現 ・それぞれの国や地域に伝わる身振りや音楽による表現の特徴や、文化的・歴史的背景 ・それぞれの国や地域の音楽の多様な表現による音楽美の感受 | ・バルマの音色を工夫しながら演奏する ・それぞれの国や地域に伝わる身振りや音楽による表現の特徴や、文化的・歴史的背景などについて理解を深めて鑑賞する ・それぞれの国や地域の音楽の共通点や相違点に着目し、多様な表現による音楽美について感想を述べ合う |
| | 表現(歌唱、器楽)、鑑賞／ 4時間 | 舞台音楽を楽しもう | バレエ、オペラ、ミュージカルなどをその背景となる文化や歴史を理解して鑑賞するとともに、その中の曲を演奏して表現の特徴を感じ取る | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | ● | ● | ● | 音色、リズム、速度、旋律、強弱、構成 | (1)、(3)* | 歌唱：Nessun dorma!／夢やふれて 器楽：情景 鑑賞：バレエ「白鳥の湖」／「イタリア・オペラ史に名を残したアリアを味わおう」 | ・バレエ、オペラ、ミュージカルそれぞれの表現の特徴 ・場面の状況や登場人物の心情と、音楽表現などのかかわり | ・バレエ、オペラ、ミュージカルそれぞれの表現の特徴を理解する ・場面の状況や登場人物の心情などが、声や楽器、身振りなどによってどのように表現されているかを理解する |
| 9 10 11 12 | 表現(歌唱)／ 6時間 | 表現を工夫して合唱やアンサンブルをしよう | 各パートの役割を意識し、表現を工夫して合唱やアンサンブルの喜びを味わう | ● | ● | ● | ● | | | | | | | | | | | 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、構成 | (3)* | Sherry／アンパンマンのマーチ／赤とんぼ／秋のあじさい／はなさくら／幼き日のアルバム | ・各パートの音の重なり方や全体の調和 ・楽曲にふさわしい表現方法 | ・一人一人が主体的、積極的に歌い、各パートの役割やハーモニーを意識して合唱やアンサンブルの喜びを味わう ・共通のイメージをもって、楽曲にふさわしい表現を心がける |
| | 表現(歌唱、器楽)／ 4時間 | 三線の弾き歌いをしよう | 三線の音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解し、表現を工夫しながら弾き歌いをする | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | | | 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱 | (1)、(3)*、(4)* | 涙そうそう／ていんさぐぬ花 | ・三線の音色や奏法の特徴 ・音色、リズム、旋律、強弱など、音楽を形づくっている要素の知覚と、それらの働きの感受 | ・三線の音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解して演奏する ・音色、リズム、旋律、強弱など、音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解し、表現を工夫して演奏する |
| | 表現(創作)／ 4時間 | 創作に挑戦しよう | 音楽材の特徴を生かして主題をつくり、それを変化させて構成を工夫しながら創作する | | | | | | | ● | ● | | | | | | | 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、構成 | (2)*、(3)*、(5)* | 「構成を工夫して作品をつくらう」 | ・音楽材や旋律の重ね方などによる響きの違いの感受 ・イメージした全体像に合うような構成の工夫 | ・音楽材や旋律の重ね方などによる響きの違いを感じ取り、その特徴を生かして創作する ・反復、変化、対照などの構成を工夫して、イメージをもって創造的に音楽をつくる |
| | 表現(歌唱)、鑑賞／ 4時間 | 歌舞伎に親しもう | 歌舞伎の表現の特徴や文化的・歴史的背景を理解し、表現を工夫して長唄を唄う | ● | ● | ● | ● | | | | | | | ● | ● | ● | ● | 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱 | (1)、(2)、(3)*、(4)* | 歌唱：「長唄に親しもう」 鑑賞：歌舞伎「京鹿子娘道成寺」 | ・長唄の発声や歌唱法の特徴を生かした表現 ・歌舞伎の表現の特徴や文化的・歴史的背景 | ・長唄の発声や歌唱法について学習し、表現を工夫して唄う ・歌舞伎の表現の特徴や文化的・歴史的背景を理解し、そのよさや美しさなどを味わって鑑賞する |
| | 表現(器楽)／ 6時間 | アンサンブルを楽しもう | 各パートの役割や全体の響きを考えながら、表現を工夫してアンサンブルを楽しむ | | | | ● | ● | ● | ● | | | | | | | | 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、構成 | (3)* | E-TEN-RAKU／ソナタ／愛のテーマ／人生のメリーゴランド | ・各パートの音の重なり方や全体の調和 ・楽曲にふさわしい表現方法 | ・各パートの役割や全体の響きについて一人一人が主体的に考え、音色、フレーズ、強弱などを工夫してアンサンブルする ・共通のイメージをもって、アンサンブルにふさわしい表現を心がける |
| 鑑賞／ 4時間 | ベートーヴェンの生涯と作品をたどろう | 作曲家の生涯や時代背景について学習しながら、それぞれの作品の特徴を聴き取る | | | | | | | | | | | | ● | ● | ● | 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、構成 | (6)* | 「ベートーヴェンの生涯と作品をたどろう」 | ・ベートーヴェンの生涯と彼が生きた時代の社会 ・それぞれの創作期(初期、中期、後期など)の背景と、楽曲の表現の特徴とのかかわり | ・ベートーヴェンの生涯と彼が生きた時代の社会について学習し、一人の作曲家の創作活動をたどる ・作曲した時期を踏まえてそれぞれの作品の特徴を聴き取り、楽曲の文化的・歴史的背景や表現の特徴について理解を深めて鑑賞する | |
| 1 2 3 | 表現(歌唱、器楽、創作)／ 8時間 | 編曲に挑戦しよう | 表現形態などに応じた編曲をして発表する | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | | | 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、構成 | (1)、(2)*、(3)*、(5)*、(8)* | 歌唱：上を向いて歩こう／糸／Amazing Grace 器楽：冬(第2楽章) 創作：「演奏スタイルを変化させよう」 | ・様々な音楽の表現の特徴 ・演奏の目的や表現形態に応じた編曲 | ・音色やリズム、旋律の重ね方などを工夫しながら歌ったり演奏したりする ・様々な編曲の方法があることや、音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解し、演奏の目的や表現形態に応じて楽曲の一部を編曲する |
| | 表現(歌唱)、鑑賞／ 4時間 | 郷土の民謡や芸能に親しもう | 郷土の民謡・芸能の表現の特徴や文化的・歴史的背景を理解し、表現を工夫して歌ったり、鑑賞したりする | ● | ● | ● | ● | | | | | | | ● | ● | ● | ● | 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱 | (1)、(2)、(4)*、(7)*、(8)* | 歌唱：ビルカ ビルカ／斎太郎節／各地に伝わる民謡 鑑賞：各地に伝わる芸能 | ・民謡の発声や歌唱法の特徴を生かした表現 ・各地に伝わる民謡・芸能の表現の特徴や文化的・歴史的背景 | ・民謡の発声や歌唱法について学習し、表現を工夫して歌う ・各地に伝わる民謡・芸能の表現の特徴や文化的・歴史的背景を理解し、そのよさや美しさなどを味わって鑑賞する |
| | 鑑賞／ 2時間 | 音楽の世界を広げよう | 様々なポピュラー音楽に親しみ、音楽の多様性について理解を深める | | | | | | | | | | | ● | ● | ● | | 音色、リズム、旋律、テクスチャ、強弱、構成 | (6)*、(7)*、(8)* | 「民衆の音楽から世界のポピュラー音楽へ」 | ・それぞれの音楽の特徴や、音楽を形づくっている要素の知覚と感受 ・それぞれの音楽の文化的・歴史的背景や、多様な表現による音楽美の感受 | ・声や楽器の音色、リズムなど、それぞれの音楽を形づくっている要素について理解する ・それぞれの音楽の文化的・歴史的背景を理解し、多様な表現による音楽美について感想を述べ合う |

指導書について

【指導書の構成】

研究資料編・楽譜資料編・指導用CD・鑑賞用CD(セット販売)……予定価格(17,000円+消費税)

【指導書の内容】

研究資料編

年間指導計画例とそれに対応した題材ごとの評価規準例、学習指導案例などを複数掲載しています。授業を多角的にサポートする資料を掲載しています。ソルフェージュの補充教材を掲載しています。音楽史や楽典などに関するEXERCISEを掲載しています。

◆指導のポイントと楽曲解説をまとめた紙面の例



※紙面はサンプルです。文章やデザインは変更になる場合があります。

◆楽典に関するEXERCISEの例



楽譜資料編

歌唱教材の伴奏譜の他、移調譜や別の編曲なども随時取り上げ、指導の便宜を図っています。

指導用CD(2枚)

歌唱と器楽教材の模範演奏、カラピアノ、合唱曲のパート別演奏(一部)などを収録しています。また、イタリア歌曲、ドイツ歌曲、フランス歌曲は原語歌詞の朗読も収録しています。

日本歌曲、イタリア歌曲、ドイツ歌曲、フランス歌曲などの模範演奏を新録し、調性をはじめ教科書掲載楽譜に対応したものを取りそろえています。

鑑賞用CD(2枚)

厳選した鑑賞教材を収録しています。

CDが1枚増え、教科書で取り扱っている鑑賞曲のほとんどが網羅されています(一部抜粋収録あり)。

検討の観点別に見た特色

| | 観点 | 教科書の特色 |
|----|---|---|
| 範囲 | ●取り扱う内容の範囲は、学習指導要領の目標及び内容によっているか。 | ●多様なジャンルから精選された教材によって必要な内容が十分に扱われており、音楽科の目標を達成するという観点から極めて適切なものとなっている。 |
| 程度 | ●教材は生徒の心身の発達段階や生徒の能力の実態に適切しているか。 | ●歌唱教材においては、生徒の心情的な発達段階に応じた楽曲が取り上げられている。器楽教材においては、各学校の実態や生徒の習熟度に応じた楽曲が取り上げられている。また、鑑賞教材についても同様の扱いがなされている。 |
| 内容 | ●「音楽を形づくっている要素」が学習を進めるうえで適切に扱われているか。 | ●表現及び鑑賞に共通する指導内容として「音楽を形づくっている要素」に関する学習が示されており、その考え方の具体的なヒントとなる「音楽を鑑賞する際に」が掲載されている。 |
| | ●教材の選択及び扱いは、学習指導を進めるうえで適切であるか。 | ●幅広く変化に富んだ学習活動を行うことのできる教材が用意されており、生徒が興味・関心をもって意欲的に学習を進めることができるよう配慮されている。 |
| | ●基礎的・基本的な内容を学習するうえで適切であるか。 | ●教材の内容に関連して、基礎的・基本的な内容を学習できる参考資料が掲載されている。また、ページ間にリンクが張られており、確実に学習活動を進められるよう配慮されている。 |
| | ●説明文やイラスト、写真などは、学習を進めるうえで適切であるか。 | ●説明文は平易な文章で書かれており、その配置も工夫されている。 ●イラスト、写真の取り上げ方もアイディアにあふれ、音楽的感性を育成しながら知的理解を深められるよう配慮されている。 |
| 構成 | ●生徒が興味・関心をもって、主体的・創造的な学習活動に取り組めるよう工夫されているか。 | ●生徒が自ら主体的に学習活動を進められるように、各教材に学習内容や活動のポイントが明確に示されている。 |
| | ●我が国の音楽や音楽文化に対する配慮がなされているか。 | ●創作の活動においては、生徒の能力に応じて創造的に進められるよう配慮されている。 ●鑑賞の活動においては、日本独自の文化の中で育まれてきた音楽の特徴を感じ取ることができるよう配慮されている。器楽の活動においては、各学校の実態に応じて取り組めるよう4種類の和楽器が取り上げられている。また、音楽的側面からだけでなく、文化的側面からも捉えられるよう配慮されている。 |
| | ●小学校、中学校における学習内容との系統性、一貫性について配慮されているか。 | ●小学校、中学校の義務教育における音楽科の目標の上に立った内容の教科書となっている。 ●歌い継いでいきたい日本の歌を「心の歌」と題して小学校、中学校から一貫して取り上げており、日本の歌に対する配慮がなされている。 |
| 人権 | ●各学校や生徒の実態に応じた学習指導計画を立てられるよう配慮がなされているか。 | ●各教材に示された学習内容や活動のポイント、歌唱・器楽の「ジャンル別MAP」などにより、各学校や生徒の実態に応じた学習指導計画を立てられるよう配慮されている。 ●表現教材と鑑賞教材の関連が図られており、分野を通じた題材設定がしやすいよう配慮されている。 |
| | ●教材の配列は適切であるか。 | ●学習指導要領の内容に即した教材が配列されている。 ●表現教材と鑑賞教材の関連が図られており、さらにページ間に張られたリンクによって、理解を深めたり関連付けたりできるよう随所に工夫がなされている。 |
| 体裁 | ●教材の分量は適切であるか。 | ●豊富な分量が扱われており、各学校や生徒の実態に応じて柔軟な対応ができるよう配慮されている。 |
| | ●人権教育、国際理解、情報、環境などに配慮されているか。 | ●全体を通して、人権教育に対する適切な配慮がなされている。また、諸外国の文化に対する理解を深めることができるという点についても配慮がなされている。 ●音楽に関する知的財産権について「ルールを守って音楽を楽しもう」が掲載されており、生徒にとって分かりやすく説明されている。 |
| | ●全体の体裁は教科書として適切であるか。 | ●A4変型判で楽譜が見やすく、紙面のレイアウトも統一感があり、教科書として適切なものとなっている。 |
| 印刷 | ●印刷、製本などは適切であるか。 | ●表紙や扉からも音楽に対するメッセージが感じられる体裁となっている。 ●全ページにわたって美しいカラー刷りとなっており、楽譜、文字、イラスト、写真などが鮮明に印刷されている。 ●製本は長期の使用に十分耐える堅牢なものとなっている。 |
| | ●ユニバーサルデザインへの配慮がなされているか。 | ●再生紙を使用し、リサイクル可能な表紙加工を施すなど、環境に十分な配慮がなされている。 ●全体に区別しやすい配色を用いながら必要に応じて形状や濃度を違えるなど、確実に識別できるよう配慮されている。 |

別売 映像資料について

教科書に掲載されている「世界の諸民族の音楽」の授業展開を強力にサポートする鑑賞教材が、Blu-rayで初登場! 迫力ある演奏のみならず、各国の風景、美しい民族衣装などの文化にも触れることができます。DVDを遥かに凌ぐ高解像度と、最新技術のマスタリングによる立体感あるサウンドで楽しめます。

New



音楽鑑賞 世界の民族音楽

- Blu-ray 1 枚 / 収録時間 202 分 ● 定価 (18,000 円 + 消費税)
- 全ての映像について、各分野の研究者によるライナーノーツ付き

その他、音楽鑑賞 DVD では「日本の伝統芸能 編」と「民族編」を販売しています。どちらも鑑賞や音楽史の授業に最適です。

日本の伝統芸能 編

- DVD 1 枚 / 収録時間 126 分 ● 定価 (18,000 円 + 消費税)
- 雅楽、琵琶楽、能楽、文楽、歌舞伎の成り立ちと魅力を紹介
- 鑑賞演目は副音声解説付き



民族編

- DVD 1 枚 / 収録時間 146 分 ● 定価 (18,000 円 + 消費税)
- 38 カ国、全 59 曲を収録
- 民族音楽研究家、江波戸昭先生の解説付き

第1表

高等学校用教科書需要票

見 本

| | | | | | | | | |
|-------------|--------|---------|--------|--------|-------------|-------------|-----|---|
| 発 行 者 | 番 号 | 27 | 略 称 | 教 芸 | 需 要 数 | 生 徒 用 | 150 | 冊 |
| | 記 号 | 音II | 番 号 | 310 | | 教 員 用 | 2 | 冊 |
| 教 科 書 | 書 名 | MOUSA 2 | | | | 計 | 152 | 冊 |

所在地
学校名
電 話

(全日制・定時制・通信制)



株式会社 教育芸術社

- 本 社 〒171-0051 東京都豊島区長崎 1-12-15 TEL.03-3957-1175(代)
- 中部支社 〒460-0024 名古屋市中区正木 4-8-7 れんが橋ビル 8F TEL.052-678-3151(代)
- 関西支社 〒540-0003 大阪市中央区森ノ宮中央 1-14-17-601 TEL.06-6943-7245(代)
- 西部支社 〒751-0808 下関市一の宮本町 2-7-14 TEL.083-256-4747(代)

ホームページ <http://www.kyogei.co.jp/>

※環境に配慮した紙を使用しています。